

地域を守ってきた砂防遺産を未来へ引き継ぐ

ー牛伏川階段工完成百周年を契機にー

土木・環境しなの技術支援センター

各論

I 牛伏川階段工完成 100 周年記念行事の取り組み

1 牛伏川階段工 100 周年記念行事の目的

明治から昭和初期にかけて地域産業の発展を支えた社会基盤が今もなお、その役割を果たし続けている。鉄道、道路、発電所、そして治水、砂防など、地域の歴史や文化とともに歩んできた土木建造物は技術的評価、歴史性から土木遺産と評価される。その社会基盤整備の中でも大きな役割を持ったのが防災工事である「砂防施設」で、牛伏川の砂防工事は、その代表格である。

牛伏川砂防施設を代表する「牛伏川階段工」は、その砂防技術の高さと周辺との調和に優れていたが評価され、平成 14 年に国登録有形文化財となり、平成 23 年には砂防施設としては全国で 2 番目の国の重要文化財に指定されている。

牛伏川階段工完成 100 周年の節目にあたって、この歩みをふりかえり、砂防工事が行われた理由、背景、そして今の地域を守っているその役割を再度確認し、そして未来へどう繋いでいくかを考える機会とすることを目標の 1 つとした。

また本事業を通じて、牛伏川の歩みを地域、関係者と改めて確認し、また同様の施設を抱える各地の団体とも交流することで、これからの取り組みにつなげることを目指した。

2 市民見学会の実施

市民へ牛伏川砂防をアピールし、100 周年記念のイベントへのプロローグとして、市民見学会を 2 回開催した。

第 1 回見学会：6 月 10 日（日）13:30～15:30

小雨となりましたが、関心が高く、参加者が 65 名、スタッフを入れて 80 名の見学会となった。

第 2 回見学会：9 月 2 日（日）9:00～11:30

砂防施設を見学するだけでなく、どうしてこの景観が維持できているかを学ぶため、草刈りなどの整備活動にも取り組んでいただいた。

参加人数は、第 1 回より少なかったが、草刈り等の整備活動の必要性を理解して貰う機会となった。

2 回の見学会とも 2 時間以上におよび、牛伏川の源流近くまで見学ができ、牛伏川砂防の素晴らしさを体感すると共に、参加者から熱心な質問も多く出され、なぜこのような工事が行われたかを考える貴重な機会となった。

3 記念行事の開催

100周年記念行事は、平成30年10月18、19日の2日間にわたって開催され、次の様な取り組みを行うことができた。

(1) 現地見学会

10月18日の現地見学会には、県内外から約150名というかつてない大勢の参加となった。

見学会では、全体説明をした後、3班にわかれて見学を実施した。好天にも恵まれ、階段工やえん堤、石張水路張石水路などを十分に堪能し、参加者からは改めて階段工の美しさや、石積み技術の確かさに感嘆の感想が寄せられた。

見学の狙いの1つであった牛伏川砂防が広範囲に巡らされた総合的な砂防工事であることを広く理解して貰う点で大きな成果につながったと考えている。

(2) 参加者交流会

見学が終了後、松本市内の飲食店で「会費制」の交流会を実施した。交流会には、見学会、シンポジウム参加の県外の参加者、整備活動に取り組んでいる各地の皆さん、国や県などの行政の担当者、そして牛伏川の地元の関係者など総勢90名の参加があり、大変な盛り上がりとなり、3時間に及んだ。

牛伏川の地元関係者にとっても各地、各界の方々から取り組みや意見を聞くことが出来、内容の濃い交流をすることができた。

(3) 石積砂防シンポジウム

最初に松本市文化財審議委員の後藤芳孝さんから「重要文化財として評価された牛伏川階段工」のご講演をいただいた。講演では、文化財の専門家の立場から評価にくわえ、牛伏川砂防に地元がどう関わったかに注目をした内容のお話があり、改めて牛伏川砂防の歴史等を学ぶ内容になった。

その後、広島県や福井県、新潟県、富山県、岐阜県、長野県内では芦澤川（麻績村）、薬師沢（小川村）など各地の歴史的な砂防施設の維持管理や保存活動などの事例発表がされた。

パネルディスカッションでは、牛伏鉢伏友の会の加藤代表、土木・環境しなの技術支援センターの小西理事長、講演された後藤先生に加え、別所砂留の活動を支援されている岡山大学樋口先生にも参加していただき、会場からの質問も含め意見交換ができた。

(4) 県民講演会、朗読劇

午後は引き続き、約300名の参加者を頂いて、講演会などが行われた。長野県立歴史館笹本正治館長の「災害と伝承」をテーマとした講演は、各地の残る赤牛伝説などに着目して、地域で災害の歴史をどう伝承し、防災に役立てるかなどが力説された。

そして事前からの取り組みをしてきた地元松本市立明善小学校5年2組による「牛伏川災害学習の発表」が行われ、子供たちの真剣な目差しが印象的だった。

最後に牛伏川の砂防工事を舞台とした朗読劇「鶴鴿の女（せきれいのひと）」が雪華の会により上演され、工事に係わった人間たちの生き様を改めて感じる事ができた。

4 将来への継続

100周年記念行事は、国、県、松本市の行政機関に加え、地元区、公民館、整備に取り組んできた地元活動団体、当センターなどで構成する実行委員会により取り組むことができた。地元のボランティア団体の高齢化により草刈りなどの諸活動が厳しくなっている中で、今後も牛伏川砂防施設の保全活用を進めていくため、行事終了後の実行委員会で検討を重ね、地元区、地元公民館の協力によって「連絡協議会」の設立につなげることができた。当センターとしては、今後の活動へも協力を続けていきたい。

牛伏川階段工完成100周年記念行事 主催 記念行事実行委員会 牛伏川現地見学会・シンポジウム 30年10月18日、19日開催



見学会には予定を大幅に超える150名が参加しました。
参加者の半数が県外からでした。



西本晴男先生(元筑波大教授)からフランスの砂防について



とやま川の会の 林さんから石工の調査が
翌日には とやまの石工の報告がされました



どの見学場所も砂防のすごさに驚きの連続でした。



挨拶する牛伏鉢伏友の会 加藤輝和さん



好天に恵まれ、2時間余に渡り熱心な見学が続きました。

本行事は北陸地域づくり協会研究助成事業、砂防ボランティア基金助成事業の支援を受けています。

本行事は北陸地域づくり協会研究助成事業、砂防ボランティア基金助成事業の支援を受けています。

牛伏川階段工完成100周年記念行事 牛伏川現地見学会・シンポジウム

30年10月18日、19日開催



シンポジウムは最初に 後藤芳孝さん(松本市文化財審議会委員)から、牛伏川砂防の文化財としての価値、地域の取り組みが紹介されました。



堂々川堂の会



田倉川暮らしの会からアカンタ
砂防の報告



パネルディスカッションは、田下長野県砂防課長の司会、パネラーには岡山大学の樋口先生も参加いただきました。



岐阜県の石積えん堤の調査報告



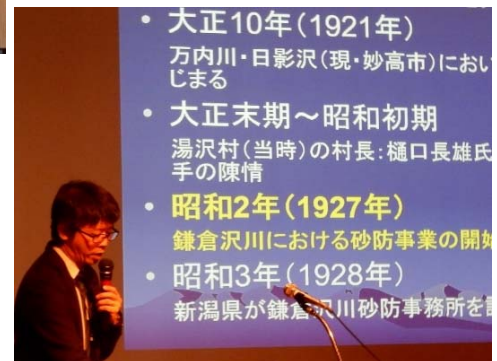
別所砂留の会



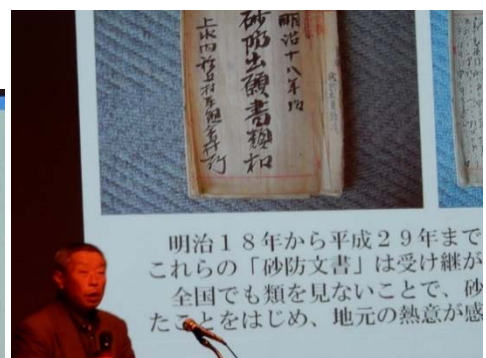
立山カルデラ博物館からの報告



麻績村芦澤石積えん堤の報告



新潟県の歴史砂防施設の紹介



小川村薬師沢 砂防惣代の報告

牛伏川階段工完成100周年記念行事

主催 記念行事实行委員会

記念式典・県民講演会

30年10月19日開催



ご挨拶する古幡実行委員長（松本市内田地区町会連合会会長）



来賓で出席された国土交通省
栗原砂防部長のご挨拶



県立歴史館笹本館長の講演「災害と伝承」



会場には多くの皆様の参加を頂き、熱心にご聴講を
いただきました。



明善小学校5年の児童による牛伏川の学習発表



雪華の会により、牛伏川の砂防工事を題材とした朗読劇「鶴鴿の女」が
上演されました

本行事は北陸地域づくり協会研究助成事業、砂防ボランティア基金助成事業の支援を受けています。

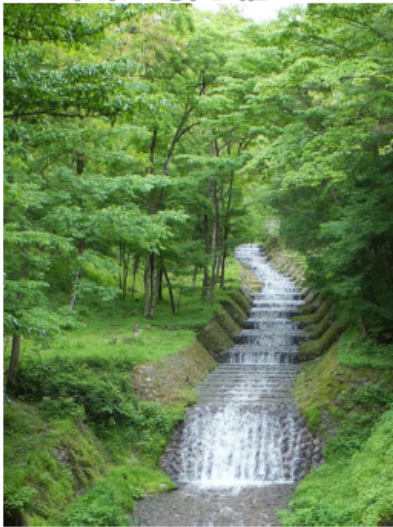
牛伏川階段工完成100周年記念行事 主催 記念行事実行委員会

見学会・シンポジウム・県民講演会

30年10月19日開催

参加者のお名前 ()

地域を守った歴史的砂防施設を
未来へ引き継ごう



平成30年10月18～19日
牛伏川階段工完成100周年記念実行委員

北陸地域づくり協会研究助成事業、砂防ボランティア基金助成事業

←見学会で配布した資料集＝牛伏川の資料とシンポジウムで発表された各地の事例が編集されています。



シンポジウム会場には全国各の歴史的砂防施設を紹介するパネルが展示されました。



シンポジウム会場のロビーでは 受付と参加者の交流がはかられました。

